

グリーンニュース 第2号

発行年月日 平成10年11月1日

発行責任者 群馬県環境アドバイザー連絡協議会
代表 新井 榮一

平成10年度環境アドバイザー重点行動テーマ

行動する環境アドバイザー

……研修・情報交換の場を広く……

◎ 地区別研修会6ヶ所で開催

コツコツ(CO₂、CO₂)プランの概要、マイバック運動の主旨説明を中心に、県内次の6ヶ所で地区別研修会が行われ、行政の方を含め合計193名の方が参加されました。

月 日	場 所	対象地域	アドバイザー	行政	合計
10月13日(火)	渋川合同庁舎	渋川、利根、吾妻	20	14	34
10月14日(水)	中部保健所	中部	23	13	36
10月19日(月)	西部保健所	西部、安中、藤岡	23	17	40
10月20日(火)	富岡地域保健所	富岡	11	7	18
10月21日(水)	館林地域保健所	館林	14	10	24
10月22日(木)	繊維工業試験場	桐生、伊勢崎、東部	23	18	41

◎ 宿泊研修会の実施

アドバイザー同志の話し合いの時間をとることをねらいとして、次のような宿泊研修会を実施します。

月 日 平成10年11月28日(土)～29日(日) 1泊2日

場 所 国立 赤城青年の家

内 容 ☆ 講演会テーマ グリーンコンシューマー運動を盛り上げる方策について

講 師 緑川芳樹先生…上記運動ネットワーク代表世話人…

☆ 分散会(専門部会)テーマ

1 グリーンコンシューマー運動

2 アイドリング防止

3 ごみの減量化

……容器、包装資材の減量化と地域住民の意識の向上……

今後は、上の3点を中心に皆様への情報提供を行い、ご協力を得て、『地球温暖化防止』『CO₂削減』に努力したいと思います。

県情報コーナー

★夏のコツコツ (CO₂CO₂) 作戦の戦果！！

県では、環境保全率先実行計画の一環として、7月1日から9月30日までの3ヶ月間「夏のコツコツ (CO₂CO₂) 作戦 [庁内版]」を実施しました。(本庁135課・室、出先208事務所)
以下の4項目につき実施状況を集計しましたので、ご報告いたします。

- 1 室内の冷房温度は28度を目安とする。
- 2 昼休み時間は執務室を消灯する。
- 3 昼休み時間はコピー機のスイッチを切る。
- 4 夕方5時30分に全庁一斉に消灯する。

○取組所属における平均室温

単位：℃

	本庁	出先
7月	26.5	27.1
8月	26.4	27.4
9月	26.4	26.9
全体	26.5	27.1

室温は、午後2時に実際に測定しています。

部屋ごとに設定できない職場がほとんどであることから、目標達成は困難でした。新庁舎では目標が達成できるよう頑張りたいと思います。

○昼休みの消灯、コピーのスイッチOFF 5時半の一斉消灯の実施状況

実施率(7・8・9月平均) 単位：%

項目	本庁	出先
昼休みの消灯	93	81
コピーのスイッチOFF	69	72
5時半の一斉消灯	26	49

昼休み消灯は、病院など業務の性質上実施できない職場があることを考えると、まずまずの実施率でした。コピースイッチ OFF と5時半消灯はもっと頑張る必要があると思います。

○参考 電力使用量

7・8・9月合計

単位：kwh

	平成10年	平成9年	増減
大手町庁舎	1,007,424	978,624	28,800
大渡町庁舎	524,442	531,828	▲7,386

大手町庁舎の電力使用量は増えています。省エネ運動を実施しましたが、庁内LAN等の導入により、OA機器が増えたためと思われます。本格的な省エネのためには、省エネマニュアルなどを作成し、こまめな節電を徹底する必要があります。

<注記>

- 1 消灯について、業務の性質上できない所属あり。
- 2 警察本部は、業務の都合等により実施していない。

★県ISO14001に挑戦！！

【ISO14001シリーズとは】

ISO(国際標準化機構)は、本部をスイスのジュネーブに置く世界共通規格・基準の設定を行う国際機関です。ISO14001は、このISOが定めた「環境マネジメントシステム」に関する国際規格のことです。「環境マネジメントシステム」とは、事業活動にともなう環境負荷の低減に向け、事業活動全般を管理・改善するために導入される一種の経営管理手法で、「計画—実施—点検—見直し」を繰り返し行うことによって、継続的に環境負荷の低減が図られるような組織体制にするためのシステムです。

【県では】

地域の一大事業者として、本庁全体の環境マネジメントシステムの構築を目指し、その第一段階として環境生活部を中心としたシステムを構築します。

また、環境保全を主要な業務とする研究機関として、率先して自らの環境負荷の低減に取り組むため、「群馬県衛生環境研究所」において、平成11年度中に認証を取得する予定です。

地域ニュース

【中部ブロック】…前橋市、富士見村、大胡町、粕川村…

◎ 住民主催の環境改善

毎年2回程度開催している『ごみ減らそう会』が活動開始してより既に4年、南橋リサイクルの会が呼び掛けて前橋市環境対策課の課長以下数名、地区内の大手小売店の店長等5～6名、一般市民、そして南橋リサイクルの会員で、午前10時から12時まで、地区公民館において総勢50名程で牛乳パックの回収、空き缶、空ビンの分別回収、ポリ袋、ビニール袋等の分別回収等、これらの事を行政が採り上げる前に自主的に行動し、行政当局の方々にも現場を視察していただき、更に参加していただき、業者の方々にも一緒に取り組んでもらい、最後には市内全般にも波及させる。(中部地区の一例です)

この様に一般市民が自分達の手で出来る身近の事から行動を起こし、周辺の輪を拡げ、行政や企業にも働きかければ、それなりの成果は充分期待出来るものと信じます。

☆ 問い合わせ先 前橋市南橋町 新井榮一さん (TEL&FAX 027-233-9225)

【東部ブロック】…太田市、尾島町、新田町、藪塚本町…

東部ブロックは、太田市、尾島町、新田町、藪塚本町の一市三町のアドバイザーにより構成され、平成9年6月4日に発足しました。

☆ 名称 環境アドバイザー太田地区連絡協議会 ☆ 会費 年額1000円

☆ 役員 会長1名、副会長2名、会計1名、書記1名、事務局長1名

☆ 会議 3月、6月、9月、12月を定例会とし、いずれも、第1と第3水曜日に行う。

第1水曜日は、自然環境部会、第3水曜日は、社会環境部会とし、部員は、いずれの部会に出席してもよい。副会長は、この二つの部会より各1名選出した。

☆ 内容 部会では、部員のめざしている環境問題ミニ講演をはじめ、先進地の見学や、講演会を開催し、『リサイクル・ドイツに学ぼう』には、市民150人の満席、自然散策会は、講師を会員の中より選択し、経費の節減を図っている。

☆ 問い合わせ先 太田市植木野町 茂木清司さん (TEL&FAX 0276-25-6009)

【利根ブロック】…沼田市、片品村、水上町、新治村 他町村はアドバイザー不在…

10月31日(土)、11月1日(日)、沼田市保健福祉センターで、ゴミ減量化イベント『ぬまたスリム展』と環境問題を身近に感じてもらうための『環境ボランティア研究集会』を行います。

フリーマーケット、リフォーム製品、リサイクル商品の展示、ミニ尾瀬展、利根地方に住むクマタカ、イヌワシの生態、生ゴミの堆肥化の現状、フロン、ダイオキシンについての展示、沼田公園での自然観察会、木の实を使ったおもちゃ作り、宮沢賢治の紙芝居、食生活改善推進協議会のエコクッキング、沼田市職員のボランティアグループ“そばーず”によるそばうち等、多彩な内容で行われます。

このような催しに協力したり、ほかし、炭、ISOについての勉強会等もしていきたいと思い、市生活環境課と折衝中です。市町村にも認知され、行政と協力して環境問題にもとりこんでいきたいと思っています。

☆ 問い合わせ先 沼田市戸鹿野町 真下淑恵さん (TEL 0278-23-6498)

トピックス・ことばの解説

ドイツ人の環境問題に対する取り組み方について

環境先進国といわれるドイツに数回旅行する機会があり、そのおり『ドイツ人の環境問題に対する取り組み方について学ぶ機会』が有りました。

今回は、その一端についてご紹介したいと思います。

A 総括的に

- 1 地球全体の問題と考え、自分達の問題として対応している。
- 2 『循環経済法』という法律を 1994 年に制定し、作り出す段階からリサイクルのことを考えるシステムが国として出来ている。
- 3 すべての考え方（発想）が合理的である。

B 個々のシステム

- 1 ドイツでも、最終処分場(埋立地)では困っている。
- 2 ドイツ人は、焼却を極端に嫌う国民である。
- 3 飲料水の自動販売機が見当たらない。売店で買えばよい、という考え方。
- 4 缶ビール、缶ジュースがない。殆どが“びん”で、デポジット制度が定着。
- 5 スーパーマーケットでは、ポリ袋をくれない。ポリ袋は有料。
消費者は、自分で買い物袋を持って行くか、カートを使用し、買ったものを直接自分の車に入れる。
- 6 果物、野菜等の売り方は、殆どが“バラ売り(個売り)”で、トレイは使用していない。
品物を買う場合、消費者は必要なものだけを、売り場にある『はかり』に乗せ、そばにある商品の絵のボタンを押して、価格シートを受け取る。
- 7 公共施設、アパート、村の中央等に、分別用の大きなコンテナが6~10台並んでいる。
ドイツ人は、色別したびんや紙、缶類をそのコンテナに入れている。
- 8 但し、観光地では、小さいゴミ箱が多数置いてあり、早朝、清掃員が“ゴミ箱の処理”と“たばこの吸いがら”を拾っている姿を見かけた。

C 全体的に

- 1 自分達の地域、自分達の環境は、自分達で守るという意識が強い。
- 2 社会秩序(ルール)をきちんと作り、それをみんなで守って行く、という『モラル』の高度化が感じられた。

D 私達日本人の課題

- 1 “出たごみをどうするか”も大切だが、同時に、“ごみ自体を出さないようにする”という発生源対策がもっと必要なのではないか。
- 2 社会秩序(ルール)は、皆で守るというモラルの向上が重要な課題。
と感じました。

(文責 連絡協議会 書記 鈴木克彬)